

学校・家庭・地域が連携・協働し、「つながる」学校づくり

— コミュニティ・スクールの具現化を通して —

あま市立七宝小学校

1 実践のねらい

- (1) 「学校は家庭や地域の理解と協力によって学校運営の改善が図られ、子供は地域の一員としての自覚が高まる。」「保護者は、学校や地域に対する理解が深まり、地域の中で子供が育てられている安心感が生まれる。」「地域住民は、経験を生かすことで生きがいとなり、地域の子は地域で育てると意識が高まる。」このような連携・協働を学校、家庭・地域と共有していく「つながる」学校づくりを進める。
- (2) 「地域と一体となって行う活動（挨拶の飛び交う学校、地域づくり）」「地域とつながるありがとうの実」地域の人的・物的資源を活用した教育活動「登下校の見守り活動」「FBC（フラワー・ブラボー・コンクール）花壇による環境整備活動」などの活動を通して、地域の一員としての自覚や貢献する気持ち、支えられている実感や感謝の気持ちを育む。

2 実践の内容

(1) 地域と一体となって行う活動【7月～1月】

「挨拶の飛び交う学校、地域づくり」を学校、家庭、地域が共通の目標として取り組むことによって、地域で子供を育てる意識を高め、きずなを深めるようにした。右図のような啓発する配布物を800枚作成し、各家庭へ配付するとともに、地域住民へは回覧板で広報をした。地域の方からは「子供たちが、率先して挨拶をすることだけで、地域に貢献している。」「挨拶をすることで防犯対策になる。」などの意見をいただいている。



挨拶の飛び交う学校、地域づくり広報チラシ

(2) 地域とつながるありがとうの実【7月～1月】

どんなことも「ありがとう」につながる。子供や教員は日々の生活の中で、保護者や地域の方は学校へ訪問をしたときに「うれしかったこと、楽しかったこと、温かい気持ちや優しい気持ちになったこと、何か発見したこと」などを記入し、「ありがとう」で結ぶメッセージを広めてきた。記入されたメッセージは、写真のように掲示して



ありがとうの実

1月末現在で2183個になっている。保護者や地域の方の「ありがとう」を見て、子供たちは地域への貢献を実感している。また、このような活動の様子や「ありがとう」のメッセージを各家庭へたよりで配付したり、地域へは回覧板で伝えたりして、学校と家庭・地域が一体となって子供を育成していく姿を共有した。



ありがとうの実を投函する子供たち 2183個のありがとうの実

(3) 地域の人的・物的資源を活用した教育活動

ア しょうゆ物知り博士出前授業【5年 11月】

七宝の特産品といえば、「みそ」「しょうゆ」である。醸造業を営んでいる方を講師として招き、「しょうゆ物知り博士」の出前授業を行った。しょうゆの香りの印象から、香りには300種類の成分があることをクイズ形式で学習した。また、「できあがったもろみ」「もろみをしぼったもの」「売っているしょうゆ」の3種類をなめ比べ、好きな味や香りが違うことに気付き、地元の特産品のすばらしさについて感想を伝え合い、地域の誇りを感じた。



しょうゆ出前授業の様子

イ むかしの料理体験【3年 12月】

「七宝の昔の暮らしを調べよう」をテーマに地域の方を講師として招き、昔の料理体験を行った。子供たちは、かつお節削りや米つき体験を通して、削ったり米をついたりすることはとても力と時間が必要なことを体験することができた。自分たちで作ったすいとんをおかわりする子もいた。しかし、昔はすいとんが何日も続いたことを聞き、同じものしか食べられない生活は大変だと感じるなど、講師の方からたくさん学ぶことができた。



むかしの料理体験授業の様子

ウ クリスマスコンサート【大正琴クラブ 12月】

大正琴クラブでは、地域から講師を招き、指導をしていただいているが、12月21日に大正琴クリスマスコンサートがあり、「きらきら星」「オブラディオブラダ」「もみじ」を披露した。当日は地域の方の息を合わせて演奏する姿を見て緊張したが、本番になるとサンタの帽子をかぶり、楽しそうに演奏をして大きな拍手をいただいた。地域住民が集うコンサートへの参加を通して、地域の一員としての自覚や貢献する気持ちを育むことができた。



クリスマスコンサートの様子

エ その他の活動

- ・みそ作り体験【5年 6月】
- ・デイサービス交流訪問【2年 7月】
- ・七宝焼き体験【4年 7月】
- ・昔の遊び体験【1年 12月】
- ・郷土学習出前授業【3年 1月】
- ・もの知り検定出前授業【6年 1月】
- ・読み聞かせ【全年 5月 7月 12月 2月】

3 実践の成果や課題

「挨拶の飛び交う学校、地域づくり」では、登下校中の見守り隊からの支援などもあり、少しずつ「挨拶」が広がり地域の一員としての自覚を育むことができた。「地域とつながるありがとうの実」では、学校生活の中で「ありがとう」を多く聞かれるようになった。保護者や地域の方の「ありがとう」のメッセージからは、支えられている実感、感謝の気持ちや郷土への愛着も醸成している。また「地域の人的・物的資源を活用した教育活動」を通して、地域の方のすばらしさを実感し誇りをもつことができた。今後も地域の空間や施設は教室であり、保護者・地域の方、企業などは先生であることを発信し「学校を核とした地域づくり」を推進していきたい。